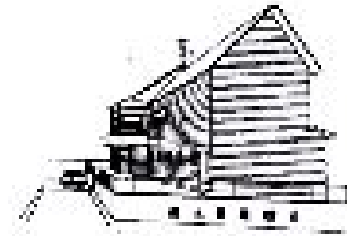


## <先週のつづき>

洗礼式が、天と地の大きな喜びとなった事は、私たちの見たとおりです。畑野基著、『フリーメソジストの信仰』「新生」(2006年3月5日)には、次のようにあります。“キリスト者としての生活は、神に義とされた瞬間から始まる。しかし、義とされるに先だって、聖霊はその人の生活の中にすでに働きかけてくださっている。この聖霊の働きかけを先行の恩寵という。これによって人は自己の罪を自覚し、招きのことばを聞き、救いの必要を示され、「立って父のもとに行こう」との決心をし、悔改めてキリストを信じる信仰にまで導かれるのである。罪を自覚して悔改め、キリストを信じる時、人はその信仰によって義とされる。信仰とは単に思索的理性的な生命のない同意、あるいは頭の中の一連の思想ではなく、心の傾向である。キリストによる救の福音の承認のみならず、キリストの血に全くより頼む事である。その生と死と復活に対する信頼である。また信仰は神の賜物であるが、人は意識を働かせて、それを受け取らねばならない。義とされるとは、端的にいえば罪の許しである。神が、罪人であるものを、罪をもっていることにこだわらないで、罪の姿をそのまま認めつつも、御自身との和解の関係の中に受け入れて下さるといことである。信仰によって義とせられ、罪の赦しを与えられると同時に、人は聖霊を与えられて新生する。義人と申請とは聖霊の同じ一つのみわざであって、同じ瞬間になされるものであるが、理論的には区別せられるものである。義認は神と人との関係の変化であり、新生は実生活での変化である。新生は聖化の出発点であり、聖霊は新生したもののうちに働き続けてくださる。その聖霊のわざを聖化とよび、日々聖化されつつある者の心と生活の状態を聖潔という。従って聖潔は新生に始まるともいいうる。・・・(p.13)”と。今朝のマタイ福音書 10:13 に “もし平安を受けるにふさわしい家であれば、あなたがたの祈る平安はその家に来るであろう。もしふさわしくなければ、その平安はあなたがたに帰って来るであろう。”とあります。私たちも、神様に勇気づけられてここに来ました。“平安を受けるにふさわしい家”って、どんな家なのでしょう。どんな人なのでしょう。畑野先生の言葉を用いれば“聖霊はすでに、先だって働きかけている家”ということになるでしょう。平安であることを願うこと、これは、その背景に神の力が働き続けていてくださることの実でしょう。そして、誰にでもこの心は、辛子種一粒ほどはあります。

# 週報

2009年 8月 9日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト  
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)